九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「子どもまつり」の実践報告 : 子どもたちにもっとゆとりを！あそびと文化を！ : 住民参画の実行委員会を組織して

宮崎, はつよ
神埼町教育委員会社会教育課生涯学習係

https://doi.org/10.15017/9062

出版情報：生活体験学習研究. 5, pp.55-61, 2005-01-28. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

日本生活体験学習学会誌　第５号　55―61（2005）

「子どもまつり」の実践報告

―子どもたちにもっとゆとりを！あそびと文化を！―

住民参画の実行委員会を組織して

宮　崎　はつよ

A Report about “KODOMO MATSURI”

―More chances for children to play and enjoy culture―

With the cooperation of Kanzaki Residents

Miyazaki　Hatuyo

要旨　「子どもまつり」を開催して、６年目を迎えた。子ども達が、「無気力・無感動・無関心」といわれる現在、子どもたちの心の琴線にふれる・大人になっても心に残る感動を、また、さまざまな体験をすることで、子ども達が育つという思いで、子どもたちを地域が育てるという意識を持って活動しているサークルや団体で実行委員会を組織し、実行委員のアイデアとパワーで子どもたちに感動の場、体験（つくり、ふれあい）の場づくりに取りくんでいる。また、子どもたち自らが、企画・立案・準備から当日の役割も担うコーナーや、当日スタッフとして関わるコーナー等、多くの子どもたちが活躍するイベントでもある。

本稿は、「子どもわくわくフェスタ」の立ち上げから「こどもまつり」になり現在までの実践報告と活動の広がりをまとめている。

１．はじめに

これまで、町行政の中で各課において、子ども達が関わるイベントや行事等がそれぞれ独自に開催されており、参加する子どもたちが多忙を極めており、集約できないか等の声もあった。そこで、予算面、内容のレベルアップ等を考慮し、内容を充実させた一つのイベントにできないか、という討議が行われた結果、子どもたちが本物に触れる、わくわくするような体験、感動を受ける•与えるイベントとして、平成11年度「こどもわくわくフェスタ」を開催することとなった。

開催するにあたり、それまで、イベント等は行政主導で行われていたが、住民参画・住民主導により開催することととし、子どもたちに意識して関わっているサークルや団体に呼びかけ説明会を実施し、賛同した団体やサークルで「子どもまつり」実行委員会を組織した。「子どもまつり」は、実行委員一人ひとりのアイデアとパワーで、子どもたちに感動の場やさまざまな体験の場を繰り広げるイベントとなり、毎年内容が充実して現在に至っている。その後、平成14年度、神埼町ではこども条例が制定され、「子ども達を家庭、学校、地域、企業、行政みんなで育てていく。」こととし、それに伴い、こどもわくわくフェスタを「子どもまつり」として開催することになった。

２．目的

多忙な子ども達が、学校も塾も宿題も、家での役割も部活も全てを忘れて思いっきり遊ぶ、本物を見る、体験する、自分を取り戻し自信を持つための、場所と

連絡・別刷り請求先（Corresponding author）
神埼町教育委員会社会教育課生涯学習係（〒842-0007 佐賀県神埼郡神埼町大字鶴3388-5　中央公民館内）
Kanzaki-machi, The Educational Committee, Social Educational Department, Life-Long Learning Section
(3388-5 Tsuru, Kanzaki, Town, Saga Prefecture (central Public Hall))
TEL 0952-53-2325　　FAX 0952-53-4940

時間と内容を提供し、全ての子ども達に夢を持ってもらえるよう、次のように目的を設定した。

『未来を担う子ども達が、遊びや文化を通し、“楽しさややりがい”を感じ、“思いやりややさしさ”を育む中で、自分に自信を持ち、未来に夢を持って生きることができる人づくりを目的としています。』

３．テーマ

目的に沿い、下記のようにテーマを設定した。

『子どもたちにもっとゆとりを!あそびと文化を!』

４．実行委員会・構成

実行委員会の団体やサークルは、それぞれが子どもたちが感動し、自分に自身を持てるような内容を検討し、実行委員会に持ち寄り会員全員で全体の内容を決定して、その後準備から当日開催までそれぞれで役割を実施しているが、子どもまつりを開催するたびに賛同者、毎年参加団体やサークルが増加し、現在は下記団体で構成されている。

実行委員会：『神埼幼稚園、小桜保育園、神埼双葉園、神埼保育園、西郷保育所、仁比山保育所、神埼小学校、西郷小学校、仁比山小学校、神埼中学校、すぎの子文庫、子ども劇場、西九州大学、神埼町老人クラブ連合会、神埼町母子保健推進協議会、かささぎジュニア新体操クラブ、神埼ジュニアバレーボールクラブ、神埼少年剣道、神埼空手、神埼手話の会、絵手紙サークル、ふれあいデイサービス（神埼町社会福祉協議会）、神埼町食生活改善推進協議会、神埼町消費生活改善グループ、神埼町青少年育成町民会議、神埼町子どもクラブ連合会、神埼町自治公民館連絡協議会、神埼町ＰＴＡ、司書部会、サッカークラブ、キルトハウス「ベアーズポウ」、竹の会、一般ボランティア』

５．協力団体

子どもまつり開催にあたり、白バイ・パトカー試乗、消防自動車試乗、高所作業車試乗、手づくりおもしろ自転車作製、小動物等で下記団体に協力してもらっている。

協力団体：『神埼警察署、神埼地区消防事務組合、㈱佐電工、㈱馬場ボデー、㈱ヨコオどんぐり村事業部』

６．今までの活動

平成11年度こどもわくわくフェスタを実施するにあたり、実行委員会を立ち上げ、多くの住民や職員の協力をいただいた。子ども達の置かれている状況を考えるとき、「小さいときあんな楽しいことがあった。」と子ども達の心に残る感動、体験が不可欠であり、どうしてもこのようなイベントが必要で、継続することも大事だが、とにかく第１回が成功しなければ第２回目以降は実施させてもらえないかもしれない。どうしても成功させるという思いが、はじめてのことでとまどいながらも、膨大な量の準備作業に取り組んでいった。

第１回のフェスタ当日、子ども達の期待を映すかのような晴天、開始時間前から会場である中央公民館にあふれんばかりの人・人・人で、応援（というより心配）していただいていた住民達から、大きな声で「やったね!大成功だね!」と小躍りして自分のことのように喜んでいただいた。感謝するばかりで、この成功が第２回目以降の開催につながった。

当初から、子どもたちにノルマをかけるものではなく、内容がすばらしいと子どもたちは喜んで参加してくれるという思いで、ＰＲに努めるとともに対象の子どもたち全員にプログラムとスタンプラリーカードを配布した。（資料①②）

その結果、保護者から、「３人の子どもがいるがそれぞれマイカードとし、色を塗り、名前を書き、どのコーナーから行こうかと、当日を指折り数えて楽しみにしていますよ。」と聞いたときに、「成功する。」との確信が持てた。

第１回の会場は、中央公民館と併設している郡民グラウンド（現在は、神埼中央公園グラウンドと名称変更）の２ヶ所であったが、参加する子ども達が多すぎて、どのコーナーも待ち時間が長すぎる。という、うれしい悲鳴がアンケートに殺到し、翌年第２回目以降は、中央公民館、郡民グラウンドに加え、隣接する町の施設である「保健センター」も使用し、３ヶ所で実施している。第２回目以降、毎年内容を半分程度は変更し、子どもたちの選択肢をひろげている。子どもたちは、毎年「今年は何があるのかな」と楽しみにしてくれている。スタッフになる子どもたちも増え、どのコーナーにも子どもスタッフがいて、自分が楽しむだけでなく小さな子どもたちと一緒に楽しんでいる。毎

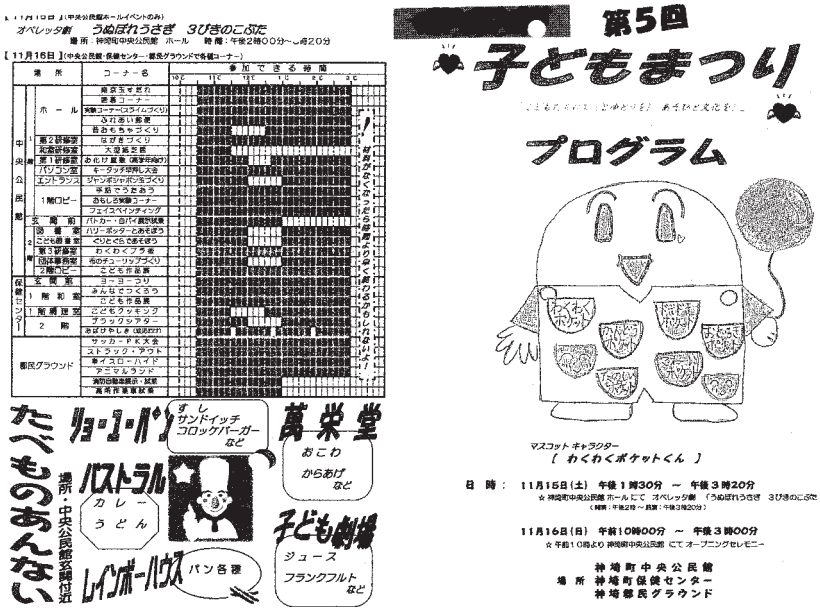
年スタッフの子どもたちの成長がみられる。

7．第5回こどもまつりの実践

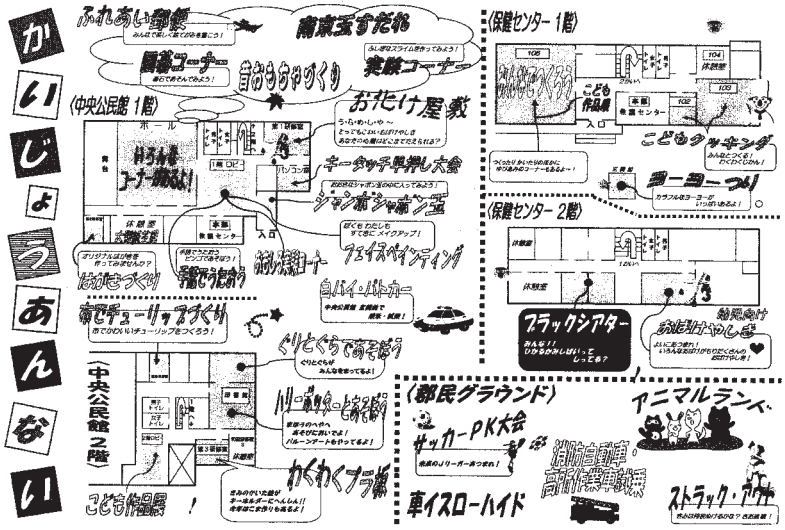
平成15年度、第5回子どもまつりは、32のコーナーがあり、それぞれの実行委員やスタッフが工夫をこらし、子どもたちと一緒に実施していただいた。当日ボランティアまで含め、520人のスタッフで開催し、5,000人を超える人たちでにぎわった。神埼町は、人口19,600人の町で、約4分の1の人が何らかの形で参加していただいたことになる。520人のスタッフの昼食も、ボランティアグループで作ってくれている。第1回は350人のボランティアで始めましたが、毎年ボランティアが増え、昨年は520人となり、前日から準備に入り当日のスタッフを支えていただいています。

①期日：平成15年11月15日(土)、16日(日)
②場所：神埼町中央公民館、神埼町保健センター、神埼郡民グラウンド
③主催：神埼町
④実施団体：子どもまつり実行委員会
⑤内容：11月15日(土)中央公民館
　　13：30～15：20
『オペレッタ　うぬぼれうさぎと3びきのこぶた』
11月16日(日)　中央公民館、保健センター、神埼郡民グラウンド
10：00～15：00（全コーナー）
オープニング：神埼中学校3年生による「神舞太鼓」
全コーナーイベント：（資料④）
⑥参加スタッフ：子どもボランティア　200人
　　大人ボランティア　　320人
　　計520人
⑦来場者：5000人
⑧マスコットキャラクター
　平成13年、町内の子どもたち全員に、こどもわくわくフェスタの「マスコットキャラクター」を募集する。町内保育園、幼稚園、小学校、中学校より314点の応募

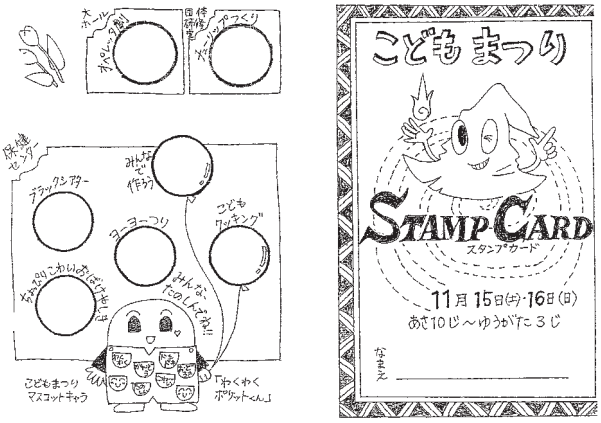
資料①プログラム（外側）



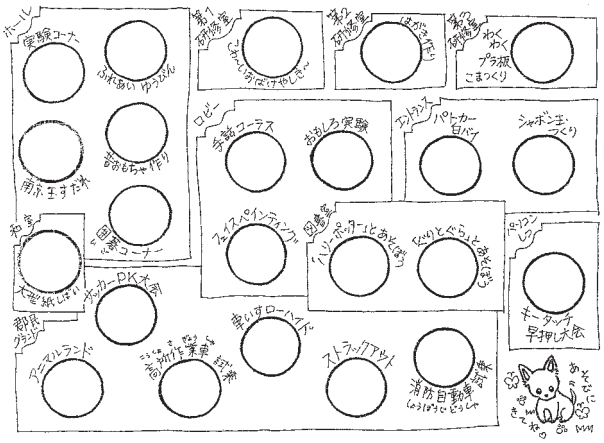
資料①プログラム（内側）



資料②スタンプラリーカード（外側）



資料②スタンプラリーカード（内側）



があり審査の結果、西郷小６年生の作品「わくわくポケットくん」が、「子どもがわくわくするようなこのイベントにふさわしい。」として最優秀作品に選ばれた。（資料③）

⑨結果報告

第５回子どもまつりの結果を、住民に報告するため、平成16年１月号の広報かんざき（町広報誌）に結果を掲載（資料⑤）

８．参加者の声（アンケートから）

毎年、参加者全員にアンケートを取り、まとめて次回の実行委員会に提示し毎年内容充実を図っている。その中から、多かった意見をまとめてみた。

①　参加した子どもたち

○毎年、こどもまつりに行っている。たくさんの遊びや実験のコーナーがあり楽しい。また来年も行きたい。次の年もまた次の年も開催してほしい。

○知らなかったことを教えてもらったり、やれなかったことをやれてとても面白かった。

○みんなと一緒に楽しめる場があるのがうれしい。とにかく楽しい。

○来年はスタッフになりたい

○小さい子どもたちのコーナーが多い、中学生が楽しめるコーナーが少ない。

②　保護者

○年に一度の子どものためのお祭り、大変すばらしい企画だと思う。親としては子どもたちがいろんな体験ができるので感謝している。子どもは、本当に毎年楽しみにしている。

○参加した子どもがスタッフになりたい、といってくれるのがうれしい。

○親子でスタッフをしたい。

○小学生のスタッフががんばっている。

○中学生スタッフが小さな子ども達をサポートしているのがすごい。

③　子どもスタッフ

○小さい子どもが喜んでくれるとうれしい。

○毎年スタッフをしている、たくさんの人が来てくれるのが楽しい。来年もスタッフをやる。

○スタッフをしていると他のコーナーに行けない。

④　大人スタッフ

○子どもたちに関われて楽しい。

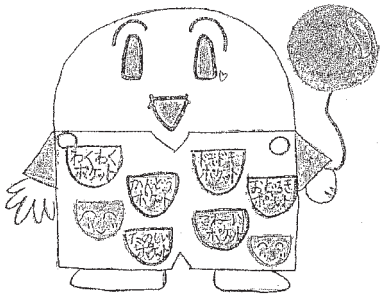
○子育てが終わり、何かの役に立てればと思い参加したが、子どもたちの喜ぶ顔がうれしい。一緒に楽しんでいます。

○町のイベントに参画できて感動している。

○子どもたちが成長しているのが楽しみ。

○子どもスタッフのがんばりに感心している。

資料③マスコットキャラクター



９．活動のひろがり

こどもまつりの実施により、住民一人ひとりが自分のやれることを見直したり、お互いに認め合ったり、実行委員のそれぞれの活動内容もみえ、その内容を総合学習で実施依頼があり、協力しあったり、また、デイサービスのおじいちゃん、おばあちゃんが製作した「手づくりジャンボ紙芝居」を小学校で実施していただいたり、子どもたちがデイサービスに招待されたり、相互に協力する体制が自然にできている。さらに、生涯学習の人材バンクに登録してもらい、生涯学習のきっかけづくりとして開催している「ちょっと体験!つまみぐい講座」の講師として活躍してもらったり、平成16年度文部科学省の受託事業である「地域子ども教室」の取り組みで、毎週水曜日町内３小学校で開催している「ドリームパーク」でも講師をしてもらったり、

資料④全コーナーイベント

【11月15日】(中央公民館ホールイベントのみ)

オペレッタ劇　うぬぼれうさぎ　3びきのこぶた

場所：神埼町中央公民館　ホール　時間：午後2時00分～3時20分

【11月16日】(中央公民館・保健センター・郡民グラウンドで各種コーナー)

場所		コーナー名	参加できる時間 (10じ～3じ)
中央公民館	ホール	南京玉すだれ	
		囲碁コーナー	
		実験コーナー(スライムづくり)	
		ふれあい郵便	
		昔おもちゃづくり	
	1階 第2研修室	はがきづくり	
	1階 和室研修室	大型紙芝居	
	1階 第1研修室	お化け屋敷(高学年向け)	
	1階 パソコン室	キータッチ早押し大会	
	1階 エントランス	ジャンボシャボン玉づくり	
	1階ロビー	手話でうたあう	
		おもしろ実験コーナー	
		フェイスペインティング	
	玄関前	バトカー・白バイ展示試乗	
	2階 図書室	ハリーポッターとあそぼう	
	2階 こども図書室	ぐりとぐらであそぼう	
	2階 第3研修室	わくわくブラ板	
	2階 団体事務室	布のチューリップづくり	
	2階ロビー	こども作品展	
保健センター	玄関前	ヨーヨーつり	
	1階和室	みんなでつくろう	
		こども作品展	
	1階調理室	こどもクッキング	
	2階	ブラックシアター	
		おばけやしき(幼児むけ)	
郡民グラウンド		サッカーPK大会	
		ストラック・アウト	
		車イスローハイド	
		アニマルランド	
		消防自動車展示・試乗	
		高所作業車試乗	

材料がなくなったら時間より早く終わるかもしれないよ！

と活動が広がっている。なお、子どもまつりも、中学生が楽しむコーナーが少ないとの声があり、平成16年度は、中学生が自分たちで企画して実施するコーナーが6ヶ所新規にできることとなり、それに伴い会場が2ヶ所増え、隣接する神埼中学校と神埼中央公園体育館が全面的に使用できることになり、平成16年度は、5会場で実施することとなった。

10．問題点とこれからの展開

平成16年度は会場が3ヶ所から5ヶ所となり、会場が増え、内容の充実はできるが、子どもたちの動線が問題となってくる。また、子どもまつりは実施するたびに、子どもの思い、保護者の思い、地域の人たちの思いが高まっている。

これからは、こどもだけではなく、保護者の関わりも考えていきたい。

さらに、町内の県立高校2校からも、当日ボランティアとして活躍してくれてはいるが実行委員会への参加がなく、中学生、大学生の参加があり、高校生の実行委員会への参加も呼びかけていきたい。

これからも多くの住民に参加参画していただき、町全体で開催し、町内だけではなく、町外、県外の子どもたちにも、「『神埼町の子どもまつり』に行きたい。」といってくれるようなイベントにしていきたいと考えている。また、市町村合併等があればもっと多くの人達が関わり、場所も内容もさらに充実し、大きなイベントとして、地域活性化の一端を担うことだろう。これからの展開が楽しみである。

11．おわりに

生涯学習は、住民の生きがいづくりであり、住民一人ひとりが、それぞれ目的、目標を持っていきいきと生きるための場づくりが行政に求められている。めまぐるしい社会の変化、少子高齢化、住民のニーズ等にどのように対応していくかが問われている。

前述したように、わが町では、人材バンクボランティア講師による「ちょっと体験！つまみ食い講座」を実施し、生涯学習のきっかけづくり、子どもから大人までのさまざまな体験の場として、地域住民に活躍していただいている。

また、平成16年度より、文部科学省の「地域子ども教室（子どもの居場所づくり事業）」を、町内3小学校で、毎週水曜日の放課後実施している。子どもたちは、毎週、昔あそび(こま回し、ケン玉等)、ニュースポーツ（ドッチビー等)、文化（華道、茶道、陶芸、英語、韓国語、絵手紙等）等、さまざまな体験活動をしており、子どもも講師も一緒になって楽しんでいる。

この子どもまつりも、これらの事業も、地域住民の意識の向上と理解、協力によって支えられている。

「自分も誰かの何かの役に立つ。」という自信が、住民を一歩前に出している。住民一人ひとりの技術、技能、いきがいを発揮する場を、行政がいかにして構築していくかが重要であり、そのためには、行政担当者の意識、知識、意欲の向上が不可欠であろう。

これからも、住民一人ひとりがいきいきと輝く町になるよう、独自性のある事業展開をし、地域活性化につなげていきたい。

資料⑤　平成16年１月号広報かんざき（第５回結果報告）掲載

第5回 子どもまつり　11月15日・16日開催！

11月15日（土）・16日（日）の2日間、神埼町中央公民館、保健センター、郡民グラウンドを会場に「第5回子どもまつり」が開催され、5000人を超える人たちでにぎわいました。
今年は小学生、中学生、高校生、大学生から高齢者まで、520人のボランティアの方々に協力いただきました。

11月15日（土）

【オペレッタ劇「うぬぼれうさぎと三匹のこぶた」】　はじめて見たけど、おもしろかったぁー！

11月16日（日）　神埼町中央公民館

【司会】

【オープニング】

【神舞太鼓】
神埼中3年生のみなさん

【実験コーナー】
スライムづくりに挑戦！

【ふれあい郵便】
絵てがみ、だれに出そうかな

【昔おもちゃづくり】何をつくろうかな

【南京玉すだれ】
ほら！見て、できたよ

【囲碁コーナー】
むずかしいけど楽しいね

【はがきづくり】
できあがりが楽しみ！

【大型紙しばい】
手づくりの紙しばいだよ

【おもしろ実験】
フィルムケースで笛をつくったよ

【手話コーラス】
手話って楽しいね

【フェイスペインティング】
かわいいでしょ

【おばけやしき】こわいぞ～

【キータッチ早押し大会】
真剣にチャレンジ中

【ジャンボ・シャボン玉】
すごーい！シャボン玉の中からみんなを見たよ

資料⑤　編成16年１月号広報かんざき（第５回結果報告）掲載

参加者の声

<子　ど　も>・毎年いろんなコーナーがあって楽しい。楽しみにしています。

<保　護　者>・一日でまわれなかったのが残念な位楽しかったです。毎年楽しみにしているので続けてほしい。
・高学年になると来年はボランティアをしたいという子どもの声を聞くとうれしくなりました。
・ボランティアの子どもたちの成長を感じました。心豊かなる子どもたちだなと感じ、こんな子どもたちがもっともっと増えてほしいですね。

<子どもスタッフ>・子どもたちによろこんでもらえてよかったと思います。楽しかったです。
・楽しかった。来年はもっといいスタッフになりたいです。

<大人スタッフ>・きつかったけど楽しかった。いい経験になったと思う。子どもとふれあう機会がないのでよかった。またやりたいです。
・どこのコーナーでも子どものスタッフが育ってくれているのがうれしいですね。